



第40回東北地区公募展【東北地区大賞】「視線」村上勇一郎(宮城)

「作品募集!!【第65回二科会写真部展】応募受付 3月1日(水)~7日(火)」



第25回茨城支部公募展【茨城二科賞】

「ウォーターボーイズ」小澤通男

職場近くの高校水泳部では、毎年9月上旬の学園祭でウォーターボーイズ（男子シンクロナイズドスイミング）のお披露目があります。学園祭で一番人気のイベントで、当日のプールサイドには大勢のギャラリーが集まります。

背景がすっきりした写真を撮りたいと思い、何度も通いました。プールの奥にある森が逆光で暗くなり、黒バックになるポジションから撮影しました。プールの水しぶきがキラキラ光り、躍動感あふれる演技を高速シャッターでとらえました。（茨城支部）

【講評】

このような動きのある写真は、次の動きを素早く察知することと、光線の状況や背景の処理が重要になります。作者は幾度も通って、場所の設定や演技の動作を観察しながら撮影したものと思います。演技をする子供たちをバランスよく配し、無駄のないフレーミングと画面構成が見事で、高速シャッターの威力を最大限に活かした素晴らしい作品です。（審査員：蜂須賀秀紀会員）

第22回長野支部公募展【長野支部大賞】

「少年時代」助川俊輔

山梨県小淵沢町を走る小海線です。田植えが終わった田んぼに小海線が映り込む場所で撮影していると、虫取りをしていた息子が、電車を追いかけてカメラの前を横切りました。

撮影後に画像を確認すると、西日を浴びて長く伸びた子供の影、麦わら帽子と虫取り網を持って走る姿が、昭和の時代を感じさせ、井上陽水「少年時代」を思い浮かべました。（長野支部）

【講評】

夕刻の斜光が非常によかったと思います。小さな電車が、うまくポイントとして効いています。虫取り網を持って走る少年の動作やシャッターチャンスも非常によかった。「少年時代」というノスタルジックな情景と雰囲気、いかに描写された作品です。

（審査員：角尾栄治会員）



第41回北海道支部公募展【北海道支部大賞】

「粉雪と舞う」小林貴茂

全日本スノーモービル選手権美瑛大会での一コマです。スピードを競うレースですが、前走者が巻き上げた雪煙の中に、このスノーモービルがゆっくりと舞うように見えた一瞬でした。

薄暗くなりつつある時間帯であり、機動性を重視して三脚は使用せずに、ブレに注意して速いシャッタースピードで撮影に臨みました。

支部公募展で名誉ある「北海道支部大賞」をいただき、自分の写真歴の中でも、記念すべき一枚になりました。（北海道支部）

【講評】

雪煙の中で、競技する選手の一瞬をとらえたシャッターチャンスが見事な作品です。このスノーモービルのジャンプの高さ、そして画面右に情景を配した画面構成がよく、迫力のある、力強いスポーツ作品になっています。（審査員：蜂須賀秀紀会員）

■表紙写真■

第40回東北地区公募展【東北地区大賞】

「視線」村上勇一郎

仙台市内の八木山動物園で撮影した「チンパンジー」です。雨天でも、時折やわらかな日射しがある1月中旬に、檻の破れている金網にレンズを差し込んで撮影。よい表情とよい光のシャッターチャンスを待って、数十枚撮った中の一枚です。

「このチンパンジー、何を考えているのかなー」「どこ見ているのかなー」など、作品についていろいろな感想をいただきました。今後も、見る人に何かを感じてもらえる作品づくりを心がけたいと思っています。（宮城支部）

【講評】

この作品は、背景処理が申し分ない。チンパンジーの頭部が背景と同化しかねない撮影条件にもかかわらず、被写体と背景が微妙なトーンで分離されている。これは作者が持ち合わせているセンスだと思う。また、光の扱い方がうまく、チンパンジーなのにゴリラのようなどっしり感があって、見る者の目を奪った。視線と目の輝きに、生きる力を強く感じた。（審査員：宗前敏光会員）



第11回滋賀支部展【滋賀支部展賞】

「北の渚」二宮紀彦

十勝川河口の渚には流氷が打ち上げられ、風の強い日は、怒涛の波が打ち寄せて、恐ろしいほどです。しかし、夕暮れどきの波頭は、強風に吹き飛ばされながらも夕日に反射してキラキラと輝き、じつに美しい。この光景の撮影にチャレンジして、激しい波の動きと一瞬の変化をとらえるのに大変苦労しました。

この度は、「滋賀支部展賞」に選ばれ、大変嬉しく思います。そして、北海道の撮影でお世話になった写友や常々ご指導いただいている諸先生方に、感謝を申し上げます。(滋賀支部)

【講評】

怒涛の波頭は、強風を感じさせます。その光景の中で一瞬の光と形を強烈にとらえて、迫力のある作品に仕上がっています。(審査員：西岡伸太名誉会員)



第40回愛知支部公募展

【愛知支部大賞】

「親子」安井 孝

平成24年6月、名古屋市の東山動物園で、ライオンの雄雌の双子が誕生しました。大変な人気で、連日、双子を一目見ようと長蛇の列。雌のステラは、お父さんが大好きです。尾っぽを囁んだり、タテガミを引っ張ったり。お父さんライオンは「痛い」という表情を見せますが、とても可愛がっていました。

そのステラは、平成27年5月に病死しました。父子ライオンのほほえましい思い出の一枚です。

(愛知支部)

【講評】

背景をうまく処理していて、ライオン親子を画面いっぱいに切り取ったフレーミングが素晴らしい。子供のパンチに親ライオンが顔をしかめた表情をタイミングよくとらえています。動物写真は、よく観察して粘り強く狙うことが必要ですが、絶妙なタイミングで、親子の愛情を的確に表現しています。

(審査員：伊藤 滋会員)



第38回広島支部公募展

【広島支部大賞】

「春の一日」河南紀久子

寒さがゆるんで、春の気配を感じ始めたころ、自宅の横にある公園の桜が咲き始めたと思ったら、あっという間に満開になりました。

そして、春雨が降り、春風が吹くと、その度に桜の花が散ってしまいます。でも、敷き詰められた花びらの景もまた美しく、そんな中に仲良しの親子が、ブランコに乗っていました。夢中で撮影して、心和む一枚になりました。

夢のような「広島支部大賞」をいただき、とても嬉しく、感激しています。(広島支部)



全国知事会賞「彼岸のころ」朝井章二(鳥取)

【講評】 普段よく見かける日常的なシーンを3枚組で構成して見せている。テーマは、彼岸のころの日々で、具体的でないが、イメージは共有されていて、個人の想いや感情を画面の中へ導いてくれる効果がある。そして、作者が表現しようとした季節感や空気感、時間の流れが心地よく迫ってくるようだ。多分、その人の人生観によって受け止め方はまちまちだろうと思うが、人生とは、こうした日常の一期一会の積み重ねであることを強く意識させられる作品である。

(評：近藤誠宏会員)



二科賞「伊根の夕暮」椋島資次(長崎)

【講評】 丹後半島にある伊根町では、舟屋と呼ばれる民家が湾に沿って立ち並び、この地区独特の景観が見られる。映画の舞台にもなって、写真の被写体としても人気が高い。舟屋は海にせり出して建てられていて、1階部分が海面につながった船揚場と物置、作業場などがあり、2階が住居となっている。この作品は、そうした独特の伝統的な佇まいを的確な構成とシャッターチャンスでとらえている。夕暮れの静寂につつまれた漁村の家々が青い色調で描写され、画面中央の家だけに明かりが灯っていて、生活の温もりが感じられる。そして、その窓に映った人のシルエットが、静止した光景に動きを添えている。撮影した時刻、重なった屋根、全体のフレーミングなど、作者の努力と感性が感じられて素晴らしい作品である。

(評：森井禎紹会員)



エプソン賞
「護摩供養」 萩野美保子(広島)



ケイジェイイメージング賞
「噴射」 曾我友一(愛知)



リコーイメージング賞
「疾走」 花木義孝(三重)

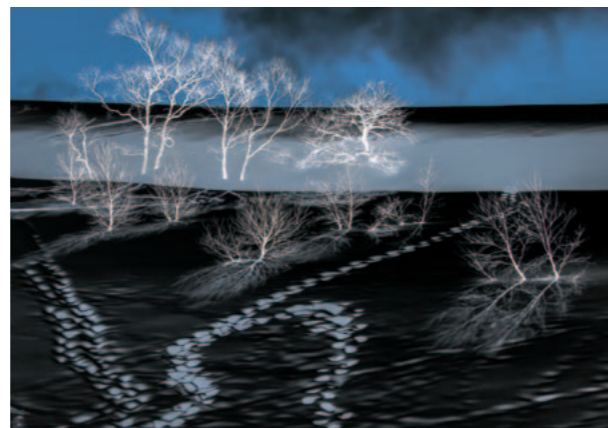


日本カメラ財団賞「老夫婦」 佐々木忠吉(石川)

【講評】 被写体となった老夫婦の醸し出す雰囲気、この作品のすべてである。年齢を重ねてきた老夫婦の陽気で屈託のない笑顔が、寄り添ってきたここまでの歴史を物語っているようだ。黒い背景に二人の人物を配した単純な構成が、モノクロ写真ならではの表現の強さになっている。作画のポイントは二人の手の扱い方で、おじいさんがほほにもっていった手、おばあさんの板にかけた手が、単調な画面に変化をもたらして表現効果を上げている。
(評：大山荘一会員)



DNP フォトイメージングジャパン賞
「怪雲飛来」 後藤重行(山梨)



ニコン賞「雪の造形」 川口靖子(山梨)



エイエムエス賞「姉妹」 山本陽子(大阪)



加賀ソルネット賞「光の競演」 宮原洋子(山口)



富士フィルム賞・会友推挙「雪の竹林」 沼沢麗子(山形)



トキナー賞「番犬」 浦崎正江(東京)



フォトコン賞「見守る」福本忠男(山口)



堀内カラー賞「極光と残雪」稲水 惇(広島)



トミカラー賞「夜明け」竹内裕子(高知)



エターナルラボ賞
「見張る。」渋谷俊隆(香川)



日本カメラ賞「七五三」那須裕一朗(福岡)



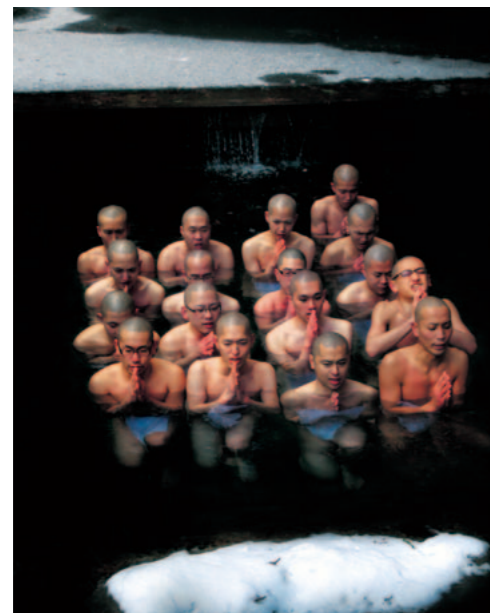
よしみカメラ賞
「落馬寸前」井上良孝(広島)



フレームマン賞「ふしぎな玉」東島 晋(山口)



カラーサイエンスラボ賞「妖光」高橋純寿(広島)



アサヒカメラ賞・会友推挙
「視」田村治義(和歌山)



ラボネットワーク賞・会友推挙
「愛情」松岡正明(広島)



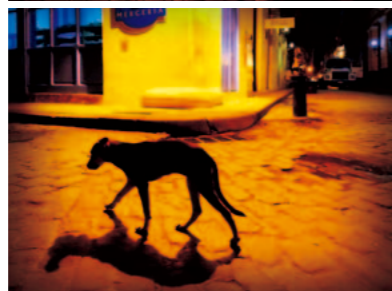
プロラボ ホワイトアース賞
「滝すべり」久保純子(福岡)



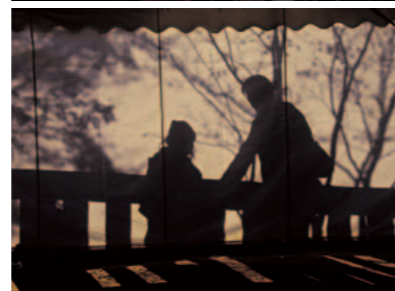
写真弘社賞「友千鳥」田中勝浩(広島)



オリンパス賞
「祭の日」内田玲子(兵庫)



タムロン賞・会友推挙
「グッドナイト」松島 寛(東京)



シグマ賞「秋影」小田祐子(大阪)



シグマ広島賞・会友推挙
「馬の生活」河本美繪子(兵庫)



セコニック賞
「ローカル線」杉野満夫(高知)



ピクトリコ賞・会友推挙
「裏町の思い出」基常忠男(鳥取)



奨励賞「採餌」大坂 武(島根)



奨励賞「夕礁」平塚幸江(秋田)



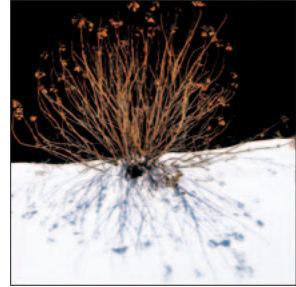
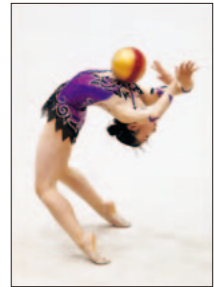
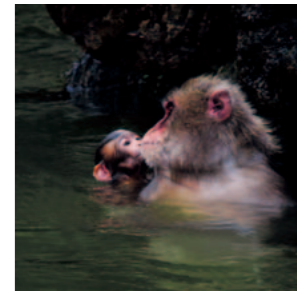
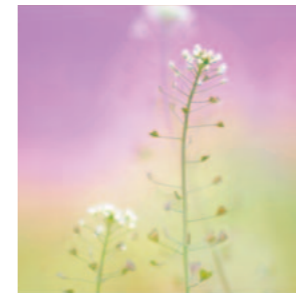
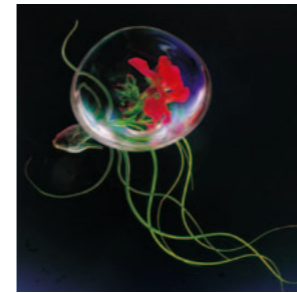
奨励賞・会友推挙
「寒色」堀内正雄(広島)



奨励賞・会友推挙「おでかけ」牛場寿子(三重)



奨励賞「ウォーミングアップ」服部 進(三重)



奨励賞・会友推挙
「ピクシー」
山本雅敏(徳島)

奨励賞・会友推挙
「雪化粧」増子秀夫(茨城)

アサヒカメラ賞
「奥能登の冬」
古田史昭(岐阜)

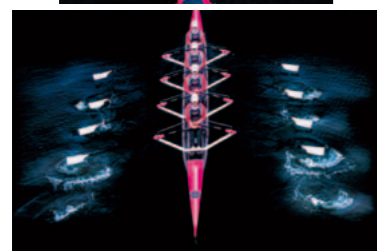
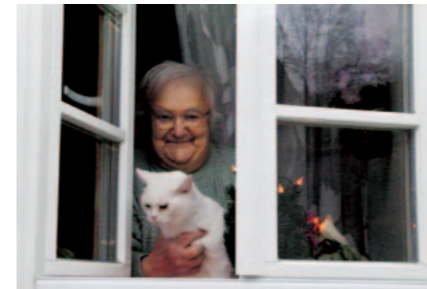
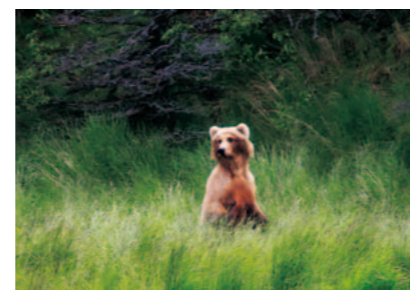
日本カメラ賞
「米作り」加藤武春(長野)

堀内カラー賞
「海の中」土屋祥子(東京)

クリエイト賞
「優雅」廣瀬一三(茨城)

イーストウエスト賞
「光彩」佐藤 玲(東京)

キャノン賞
「夏の日」塚本芳子(京都)



奨励賞・会友推挙
「漕艇」佐藤吉晴(熊本)

奨励賞
「明日に向かって」大和章人(徳島)

奨励賞「家族」磯 繁幸(東京)

フォトコン賞
「窓辺」松本壽雄(福井)

ラボネットワーク賞
「ドルポの子供達」高橋 晃(愛知)

フレームマン賞
「どんき」吉田亜佐子(兵庫)

●支部員の皆様へ！

一般社団法人二科会写真部 理事長 森井禎紹

恙なく新春を迎えることができ、お慶び申し上げます。支部員の皆様には、平素から格別なご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2017年度「第65回二科会写真部展」の公募がいよいよ始まり、下記応募要項の通り3月1日（水）から応募受付を開始します。毎年、支部員の皆様からは、多数の応募作品が寄せられ、応募点数が連続して過去最高を更新して来ました。お陰様で「二科会写真部展」は、我が国でも最大規模の展覧会に成長することができました。

しかし、近年は応募点数の伸びが鈍化しており、ついに2年ほど前から応募総数が前年度より減少するといった事態になっています。一般社団法人二科会写真部の運営基盤は、あくまでも支部員の皆様の作品応募によって成り立っています。各位には「二科会写真部展」への参加を日頃の写真活動の集大成として位置づけていただき、その成果を問う機会として、昨年を上回るより積極的な応募を期待します。そして、今後も二科会写真部展の成長が継続し、皆様が充実した素晴らしい写真人生の達成へ向けて、いっそうご活躍されますことを心より願っております。

2017年度 第65回二科会写真部展 応募要項

■募集部門

- ◎ A 単写真部門＝単写真に限る
- ◎ B 組写真部門＝3枚組写真に限る
- ※「単写真部門」「組写真部門」の両部門応募も可

■テーマ

- ◎自由（本人が撮影した「未発表作品」に限る）

■応募形態・応募サイズ

- ◎ A 単写真部門＝プリント（カラー・モノクロ）に限る
- ◎ B 組写真部門＝3枚組プリント（カラー・モノクロ）に限る（プリント3枚をタテに繋げる）
- ◎応募プリントサイズ＝四ツ切(254×305mm)～A4判(210×297mm)
- ※銀塩/デジタルとも可

- ◎応募点数・応募組数＝制限なし

■応募資格

- ◎一般公募（18歳以上でアマ、プロは問わない）

■応募受付期間

- ◎2017年3月1日(水)～7日(火) 消印有効
- ◎郵便または宅配便での送付に限る
- ※送付時に必ず【応募票】を添付

■送付先

〒352-0012 埼玉県新座市畑中 1-8-27
アイエスピー内
二科会写真部「第65回展」係
TEL:03-3470-8033

■応募料

- ◎ A 単写真部門＝1点 2,000円
- ◎ B 組写真部門＝1組(3枚組) 5,000円

■審査員

- ◎一般社団法人二科会写真部名誉会員・会員

■審査結果発表

- ◎6月末に応募者全員に直接通知
- ◎7月15日(土)に公式発表

■応募プリントの返却

- ◎希望者のみに有料で返却
- ※応募点数に関係なく1名2,000円

■賞

- ◎二科賞（1名）
- ◎全国知事会賞（1名）
- ◎日本カメラ財団賞（1名）
- ◎協賛会社賞
- ◎奨励賞

■第65回二科会写真部展

- ◎会期＝2017年9月6日(水)～18日(月)
- ◎会場＝国立新美術館

■「公募規約」請求先

〒106-0031 東京都港区西麻布 1-4-20-601
二科会写真部「第65回展」係
TEL:03-3470-8033 FAX:03-3470-8034
※二科会写真部ホームページからもダウンロードできます。



第64回二科会写真部展は、国立新美術館の広い会場に総1347点の作品を展示

第101回二科展において第64回二科会写真部展を開催しました。連日、多数の来場者があり、会期中の延べ入場者数は約90,600人を数えました。写真部展会場には、名誉会員17点、会員216点、会友276点、一般公募「単写真部門」633点、「組写真部門」205点の作品を展示しました。また、写真部展会場では、9月3日(土)と4日(日)の2日間、写真部会員によるギャラリートークがあり、入賞作品の講評を多くの参加者が熱心に聴講、好評を博しました。

2016年度 第64回 二科会写真部展

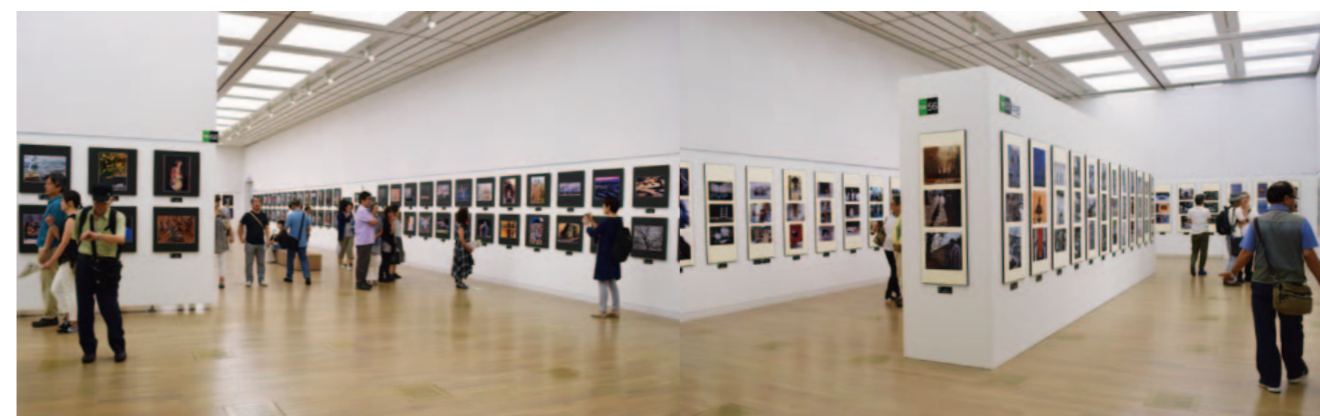
会期＝8月31日(水)～12日(月)
会場＝国立新美術館(東京)



ギャラリートークには、多くの来場者が参加して、講評に聞き入っていました



連日、多数の来場者が展示作品に見入っていました



主催：広島支部
 協賛：山口支部・岡山支部・鳥取支部・島根支部
 後援：広島県北広島町・北広島町教育委員会

北広島町「芸北神楽」



■北広島町「芸北神楽」
 約70団体もの神楽団がある北広島町では、神楽が身近な物として親しまれ、大切に伝承されています。秋の爽りに感謝し、奉納する舞いに神話や伝説を取り入れて神楽化したものです。島根県西部の石見地方から山県郡の全域に伝わった「旧舞」と言われるものと、石見地方から高田郡を経て終戦後に伝わった「新舞」と言われるものが、北広島町東部で合流し、この地方の民俗芸能として伝承されています。山県郡、安芸高田市など芸北地域一帯は、特に神楽が盛んな地域として知られています。北広島町の神楽は、主に夏から秋にかけて盛んに行われます。前夜祭で披露される、地元加計高校芸北分校の神楽部八岐大蛇は、壮快で見応えがあります。

■無形文化財「壬生の花田植」
 無形文化財「壬生の花田植」は、その年の稲作の無事と豊作を祈願する伝統行事です。早乙女や囃しが織りなす花田植は、壮観で華麗な初夏の一大田園絵巻と称賛されています。平成23年11月に、ユネスコの無形文化遺産に登録されました。花田植は、田の神に豊穰を願う神事として受け継がれてきました。昔は、花田植に限らず田植の季節になると田の神がやって来て作業を見守り、それが終わるとまた去って行くと考えられていました。この神は、田の神の他、時期により歳神・七夕神・山の神になるという伝承もあります。花田植で代掻きをする牛たちは、「飾り牛」「花牛」と呼ばれます。牛たちは、角や体をきれいに磨かれた後、美しく華やかに飾りつけられます。これは、特別な行事に参加することを示す装いとも考えられています。

●問合せ先・・・広島支部長・宗岡泰昭（TEL・FAX：082-296-2118）

●申し込み・・・郵便振替用紙でお申込みください。

2月下旬より受付を行います。

参加募集

広島「花田植と芸北神楽」撮影会

2017年6月18日(日) 10:00～15:00

〔前夜祭＝6月17日(土) 17:30～20:00〕



無形文化財「壬生の花田植」

●掲載写真はイメージです



■花田植と芸北神楽の撮影会

日時＝2017年6月18日(日) 午前10時～午後3時

会場＝広島県山県郡北広島町宮地198

雄鹿原 亀山八幡神社周辺

前夜祭・懇親会＝6月17日(土) 午後5時30分～

前夜祭会場＝芸北オークガーデン野外ステージ

広島県山県郡北広島町細見145-104

電話 0826-35-1230

申込締切＝2017年4月18日(火)

募集人数＝150名(予定) ※申込み順に受け付けます

前夜祭参加費＝6,000円(夕食代含む) ※写真撮影可

撮影会参加費＝7,000円(昼食代含む)

現地民宿＝5,400円(税込み) 朝食付き(参加者の宿は後日、ハガキにてお知らせします)

※民宿先は、広島支部で各宿に振り分けさせていただきます。

※グループ参加は、人数をお知らせください。

【アクセス】

◎17日／JR広島駅新幹線口から送迎バス(14:30出発)

◎18日／JR広島駅新幹線口から送迎バス(7:30出発)



岩崎充男写真集

『葦原 渡良瀬遊水地の四季を歩く』
渡良瀬遊水地は、一面に葦が群生し、全国でも最大級の葦原が、四季折々の情景を見せる。(会員・群馬支部) サイズB4判変形・カラー120ページ・上製本・定価5,184円(税込)・博進堂刊



佐藤 寛写真集『ぶらっとひとり旅 漫遊カメラ紀行』

世界の国々を旅して、そこで出会った人々や風景などを掲載した、ひとり旅の紀行写真集。(会友・奈良支部) サイズ246×246ミリ・カラー144ページ・上製本・定価5,000円(税込)



紺野勝司写真集『みちしお』

40年間、三陸の海を撮り続けて思ったことは、海は限りなく偉大で美しいということ。そして打ち寄せる波は、震災の傷跡を消そうとしている。生命の源である海の記録。(会友・宮城支部) サイズA4判変形・カラー124ページ・並製本・定価3,780円(税込)



橋本義昭写真集

『天啓 東北 震災復興の記録』
東日本大震災から、私の大船渡市、陸前高田市への直行は140日を超えた。これは天の啓示による復興記録。(茨城支部員) サイズA4判・カラー60ページ・上製本・定価2,000円(税込)



『ハッセルブラッド フォトクラブ 第35回写真展 作品集』

ハッセルブラッドで撮った風景写真31点を掲載したグループ作品集。伊藤陽会友の作品を掲載。(会友・東京支部) サイズ185×185ミリ・カラー32ページ・並製本・定価2,600円(税込)



小林茂雄写真集

『AQUAS アクアスの仲間たち』
地元の水族館「しまね海洋館アクアス」のオープンから16年間、その撮影を日課として来た成果を纏めた一冊。(会員・島根支部) サイズ195×195ミリ・カラー70ページ・並製本・定価1,620円(税込)・山陰中央新報社刊



『秋田の女』

秋田支部創立40周年記念出版の写真集。「秋田の女(ひと)」をテーマに募集し、支部員から寄せられた秋田の女性107人の写真が収められている。サイズ252×252ミリ・カラー107ページ・上製本・非売品



石原正道写真集

『AMERICAN SOUTHWEST II』
ゴールドラッシュ時代の夢と挫折の名残を求め、アメリカ南西部の私的な旅。(会員・東京支部) サイズ240×250ミリ・Wトーン104ページ・上製本・定価3,780円(税込)・日本写真企画刊



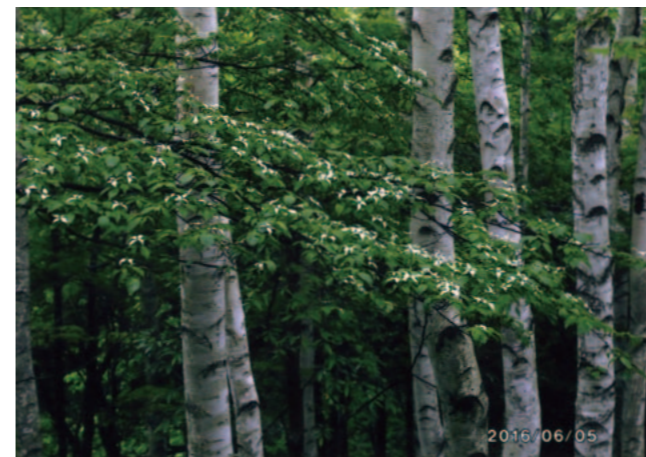
齋場ひさとし写真集

『スズメ 光と風』
自然に生きるスズメの可憐な姿を生き生きと捉えた写真集。写真ならではのスズメの様々な生態が楽しめる。(会員・愛知支部) サイズ240×250ミリ・カラー100ページ・上製本・定価3,240円(税込)・日本カメラ社刊



【安佐動物公園】(広島市安佐北区安佐町大字動物園)

安佐動物公園では、動物のベビー誕生が続いています。特に全国一を誇るシマウマ23頭の群れにも、2頭の子馬が誕生しました。動きのいい午前中がシャッターチャンス。
<アクセス> JR広島駅からバス約50分
<問合せ先> 動物園 (TEL: 082-838-1111) 木曜日休園



【県民の森】(広島県比婆郡西城町大字油木)

県民の森には、中国地方では珍しい白樺林があります。春になると新緑がまばゆく、心と和みます。ここにはヤマボウシの大木もあり、可憐な白い花を咲かせます。
<アクセス> JR芸備線「備後落合駅」からタクシー約20分
<問合せ先> 県民の森公園センター (TEL: 08248-4-2011)

【オオムラサキの里】(広島県府中市僧殿町下川辺)

日本で最大級のオオムラサキの神秘的な羽化をみることが出来る保護施設です。毎年6月中旬から下旬にかけて大型保護ネットの中で500匹以上の幼虫が羽化し、その美しい姿を見せてくれます。この施設は、私有の管理地です。
<アクセス> JR福塩線「府中駅」からタクシー約15分
<問合せ先> 国蝶オオムラサキを守る会 (後藤さん) (TEL: 0847-43-4597)



【三景園の紫陽花】(広島県三原市本郷町)

広島空港のすぐ前にある三景園では、6月になると散策コース周辺で、色鮮やかな額アジサイが楽しめます。花の種類も豊富で、訪れる人の美意識を刺激します。
<アクセス> 広島空港の前
<問合せ先> 三景園 (TEL: 0848-86-9200) 有料



支部情報

支部展・公募展作品募集

第42回北海道支部公募展作品募集

テーマ：自由（単写真に限る）
サイズ：四ツ切 A4（カラー・白黒）
受付：7月1日（土）～7日（金）
応募料：支部員 3500円、一般 5500円（1名につき）
賞：北海道大賞ほか

第42回北海道支部公募展

会期：10月7日（土）～19日（木）
会場：東川町文化ギャラリー
秋田支部第2回会員会友写真展
会期：7月28日（金）～31日（月）
会場：秋田アトリオン 第2展示室

第24回宮城支部展

会期：5月12日（金）～17日（水）
会期：せんだいメディアテーク

第42回群馬支部展

会期：6月16日（金）～20日（火）
会場：高崎シティギャラリー
第2展示室

第26回茨城支部公募展作品募集

テーマ：自由（単写真に限る）
サイズ：四ツ切 A4（カラー・白黒）

受付：3月1日（水）～7日（火）
応募料：1点 1000円
賞：茨城二科賞ほか
問合せ：小堀支部長
090-8940-8580

茨城支部展

会期：5月13日（土）～18日（木）
会場：茨城県民文化センター
会期：5月23日（火）～28日（日）
会場：シビックセンター1F
ギャラリー

新潟支部展

会場：はまなす公園ギャラリー
会期：10月31日（火）～11月5日（日）
会場：りゅうとびあ（新潟市民芸術文化会館）

第39回富山支部公募展

会期：1月7日（土）～10日（火）
会場：富山県民会館地下展示室

第49回神奈川支部公募展作品募集

テーマ：自由（単写真に限る）
サイズ：四ツ切 A4（カラー・白黒）
受付：1月20日（金）～30日（月）
応募料：支部員 1点 1500円、一般 1点 2000円

賞：神奈川支部二科大賞ほか
第49回神奈川支部公募展
会期：4月20日（木）～24日（月）
会場：みなとみらいギャラリー B・C

第23回長野支部公募展作品募集

テーマ：自由（単写真に限る）
サイズ：四ツ切 A4（カラー・白黒）
締切：6月10日（土）
応募料：1点 1000円

第23回長野支部公募展

会期：11月14日（火）～19日（日）
会場：八十二銀行本店「ギャラリー82」
会期：11月22日（水）～26日（日）
会場：茅野市民会館「市展ギャラリー」

第44回静岡支部公募展作品募集

テーマ：自由（単写真および3枚組写真）
サイズ：四ツ切 A4（カラー・白黒）
受付：1月4日（水）～31日（火）
応募料：単写真・組写真とも 1点 1000円

第44回静岡支部公募展

会期：6月6日（火）～11日（日）
会場：静岡県立美術館 県民ギャラリー（予定）

第67回中部二科展作品募集

テーマ：自由（単写真に限る）
サイズ：600×600ミリ
パネル

搬入受付：3月22日（火）13：00～13：30
会場：愛知県美術館ギャラリー
応募料：1点 3000円
賞：中部二科賞ほか

第67回中部二科展

会期：3月28日（火）～4月2日（日）
会場：愛知県美術館ギャラリー
【松江展】
会期：7月26日（水）～30日（日）
会場：タウンプラザしまね

第16回島根支部写真展

会期：8月9日（水）～13日（日）
会場：石正美術館
第53回山口支部公募展
会期：1月20日（金）～22日（日）
会場：光市文化センター
会期：2月3日（金）～5日（日）
会場：宇部市文化会館
会期：2月10日（金）～12日（日）
会場：山口市小郡文化資料館

第9回大分支部写真展

会期：4月11日（火）～16日（日）
会場：アートプラザ・ギャラリーA 展示室
第9回大分支部写真展
会期：7月14日（金）～18日（火）
会場：シビックセンター3F
ギャラリー

徳島支部展

会期：2月24日（金）～28日（火）
会場：長崎市ギャラリー コクラー4階

長崎支部員展

会場：長崎市ギャラリー コクラー4階

支部だより

【徳島支部】

支部長・森住 博（会員）

徳島支部は、現在、会員2名が徳島新聞カルチャーセンターの講師を務めており、支部員の多くが、この講座の受講生です。このため月例的な勉強会は行っていません。月2回の撮影会、月2回のカルチャーセンターでの講座が、公募展に向けての研修会にもなります。公募展応募作品のセレクト時期になると、支部員それぞれが類似した作品を所持しているために、応募のための作品セレクトの調整が、もっとも重要な課題となります。

支部員それぞれの候補作品を会員・会友と共に、個々の作品への思い入れなどを配慮しながら、模擬的な品評会も重ね、出品作品を決めます。支部員増員のためにも、今後も文化講座などに積極的に関わり、二科展の魅力を広めたいと考えています



土屋祥子「母と息子の鉄道写真展」

タイの首都バンコクでは、高速鉄道や地下鉄が走っているが、対照的なのがローカル線。沿線には、写真に残したいタイ独特の風物や営みが残る。列車はゆっくり走り、線路上も住民の生活の場になっている。（東京支部員）
会期：3月16日（木）～22日（水）
会場：HCLフォトギャラリー新宿御苑
会期：4月20日（木）～25日（火）
会場：ギャラリー芙蓉（八王子）



小澤通男写真展「神の領域」

私は鹿島神宮の総代をしており、そのお陰で様々な神事にカメラ持参で参加させてもらえる。一般には撮影出来ない鹿島神宮の神事なども撮影してきた。そうした神の領域でとらえた写真の中からセレクトした作品を展示。（茨城支部員）
会期：1月5日（木）～29日（日）
会場：ギャラリーやまさん
（TEL：0299-69-0112）



須賀 一写真展「昭和の上野」

昭和35年ごろから昭和天皇崩御までの東京・上野を撮ったモノクロ作品。上野公園、そして東北方面から上京する列車の終着駅として賑わった上野駅を中心に広がる界限は、東京でも独特の雰囲気があった。上野ならではの昭和の世相をとらえた写真展。（名誉会員・東京支部）
会期：6月14日（水）～24日（土）
会場：上野・鈴乃屋ビル 鈴乃屋ギャラリー



高橋康資写真展

「東京駅新幹線ホーム『夢を乗せて東へ西へ』」
日本一のターミナル駅である東京駅は、東海道、東北、山形、上越、北陸新幹線の終着駅であり始発駅。そのホームには、人々の夢を乗せて到着そして旅立つ独特の形状をした新幹線車両が輝いている。（会友・神奈川支部）
会期：3月24日（金）～29日（水）
会場：オリンパスギャラリー東京



柳原会員のギャラリートークに大勢が参加した

第101回二科展（巡回展）を大阪で開催

第101回二科展の巡回展が、大阪市立美術館において10月25日（火）～11月6日（日）の会期で開催し、絵画、彫刻、デザイン、写真の4部門の作品を展示。
第64回二科会写真部展では名誉会員、会員、会友作品のほか入賞作品と大阪、兵庫、奈良、和歌山の4県在住者の入選作品を展示しました。
10月26日（水）と11月2日（水）にギャラリートークを行い、講師を柳原香会員、水谷勝昭会員がそれぞれ務めました。青木君夫、山本博之の両名誉会員も参加され、来場者は有意義な時間を共有しました。

information

■ 2017 年度行事予定

- ◎ 2017 年度春期定時委員会友総会（出席者は名誉会員・会員・会友）
2月22日（水）／グランドプリンスホテル高輪
- ◎ 第102回二科展（＝第65回写真部展）
9月6日（水）～9月18日（月）／国立新美術館
- ◎ 2017 年度夏期定時委員会友総会（出席者は名誉会員・会員・会友）
9月8日（金）／東京プリンスホテル
- ◎ 第65回二科会写真部展授賞式・懇親会（出席者は来賓・名誉会員・会員・会友・入賞者・入選者および同伴者）
9月8日（金）／東京プリンスホテル

■ 2016 年度会員会友推挙者

● 会員推挙 24 名

下間長平〔千葉〕、角田行生〔群馬〕、大見信〔愛知〕、朝倉隆文〔富山〕、和久田時子〔岡山〕、小林義男〔秋田〕、田中孝視〔秋田〕、遠藤衛〔福島〕、大塚峯夫〔埼玉〕、中嶋久夫〔埼玉〕、鯉沼孝雄〔栃木〕、柴山健一〔静岡〕、若城章良〔大阪〕、渡会幸雄〔愛知〕、出合章泰〔奈良〕、福井一成〔大阪〕、杉本雅美〔鳥取〕、小林茂雄〔島根〕、小幡猛〔岡山〕、野木原和子〔広島〕、平野良雄〔広島〕、亀田満喜代〔高知〕、中島美穂子〔熊本〕、中野洋七〔福岡〕

● 会友推挙 54 名

太田信子〔岩手〕、安彦融〔秋田〕、佐藤吉栄〔山形〕、沼沢麗子〔山形〕、酒井雅子〔東京〕、松島寛〔東京〕、内田清一〔神奈川〕、日高顯治〔神奈川〕、大関祥子〔千葉〕、後藤美美子〔埼玉〕、石毛孝一郎〔栃木〕、増子秀夫〔茨城〕、新村全子〔静岡〕、荻本昇吾〔愛知〕、中村薫〔愛知〕、山崎朗〔愛知〕、牛場寿子〔三重〕、鎌田美津子〔三重〕、中野敏生〔三重〕、佐和賢爾〔京都〕、中嶋輝明〔滋賀〕、大西満也〔兵庫〕、河本美繪子〔兵庫〕、春名恵美〔兵庫〕、佐藤寛〔奈良〕、田村治義〔和歌山〕、三坂康一〔大阪〕、基常忠男〔鳥取〕、石橋美弥子〔広島〕、岩室節子〔広島〕、上野美都江〔広島〕、門田実〔広島〕、北山高〔広島〕、砂崎秀子〔広島〕、谷岡隆〔広島〕、津島恵子〔広島〕、筒井節男〔広島〕、根石清子〔広島〕、平櫛賀章〔広島〕、藤岡博司〔広島〕、堀田薫美〔広島〕、堀内正雄〔広島〕、増田洋二〔広島〕、松岡正明〔広島〕、南一敏〔広島〕、脇本敏治〔広島〕、藤岡清子〔山口〕、山本雅敏〔徳島〕、大坪享介〔高知〕、越智幸男〔愛媛〕、大野

誓志〔熊本〕、佐藤吉晴〔熊本〕、中島秀雄〔長崎〕、坂田信也〔福岡〕

■ 『第64回展二科会写真部作品集』発刊

2016 年度「第 64 回二科会写真部展」に展示した、名誉会員・会員・会友及び一般公募部門入賞・入選の総 1347 作品をオールカラーで掲載した貴重な作品集です。巻末に入賞者受賞感想、第 1 回展から第 64 回展までの入賞者・会員会友推挙者一覧、名誉会員・会員・会友・入賞者・入選者の作品目録などを掲載。ガンダレカパー並製本・サイズ A4 判変形（297×225 ミリ）・444 ページ（カラー 392 ページ、本文 52 ページ）。頒布価格 15,000 円。名誉会員・会員・会友・支部員・第 64 回展入賞者および入選者は特別価格 13,000 円。支部員以外で第 64 回展の応募者は 14,000 円（いずれも送料実費）。



『第64回展二科会写真部作品集』

■ 「熊本地震」へ各支部から義援金が寄付されました

- 岐阜支部＝岐阜新聞岐阜放送社会事業団 西濃支社へ 20,000 円を 5 月 30 日持参。
岐阜新聞岐阜放送社会事業団 西濃支社へ 10,000 円を 5 月 31 日持参。
日本赤十字社へ 20,620 円を 8 月 29 日持参。
- 滋賀支部＝熊本県熊本地震義援金口座へ 10,000 円を 5 月 31 日振込。
- 岡山支部＝日本赤十字社へ 47,000 円を 6 月 29 日持参。
- 三重支部＝中日新聞社会事業団へ 43,196 円を 6 月 29 日持参。
- 青森支部＝日本赤十字社へ 10,000 円を 7 月 1 日振込。
- 鹿児島支部＝熊本県健康福祉部へ 30,000 円を 7 月 15 日振込。
- 愛知支部＝日本赤十字社へ 60,000 円を 8 月 1 日振込。

- 鳥取支部＝日本赤十字社宛の募金を日本海新聞社に寄託 22,508 円を 8 月 3 日現金書留郵送。
- 静岡支部＝熊本県熊本地震義援金口座へ 30,000 円を 8 月 15 日振込。
- 山口支部＝熊本県健康福祉部福祉政策課へ 10,000 円を 8 月 22 日振込。
- 大分支部＝日本赤十字社へ 55,000 円を 9 月 9 日振込。
- 栃木支部＝日本赤十字社へ 20,000 円を 9 月 20 日振込。
- 茨城支部＝茨城新聞文化福祉事業団へ 63,000 円を 9 月 26 日持参。
- 福島支部＝日本赤十字社へ 100,000 円を 9 月 28 日振込。
- 大阪支部＝日本赤十字社へ 20,000 円を 10 月 13 日振込。
- 秋田支部＝日本赤十字社へ 36,100 円を 10 月 26 日振込。
- 埼玉支部＝日本赤十字社へ 19,550 円を 10 月 31 日振込。
- 福岡支部＝ふるさとくまもと応援寄付金へ 20,000 円を 11 月 1 日振込。
- 新潟支部＝株式会社新潟日報社へ 6,383 円を 11 月 7 日持参。
- 長野支部＝日本赤十字社へ 15,000 円を 11 月 28 日に振込。

■ 名誉会員・会員・会友情報

築波正信会員（佐賀）6 月 30 日自主退会
伊藤京平会員（静岡）6 月 30 日自主退会
永井義久会員（愛知）9 月 16 日逝去
龍曠光会員（長崎）10 月 4 日自主退会
芥川宏子会友（静岡）10 月 4 日自主退会
沖守弘名誉会員（東京）12 月 31 日自主退会
藤田正次名誉会員（佐賀）12 月 31 日自主退会
川田照男会員（埼玉）12 月 31 日自主退会
五十嵐敏紀会員（秋田）12 月 31 日自主退会
松岡寛会員（三重）12 月 31 日自主退会
村上光宏会員（三重）12 月 31 日自主退会
鶴田巻雄会員（群馬）12 月 31 日自主退会
小林光之会員（栃木）12 月 31 日自主退会
入野俊三会員（高知）12 月 31 日自主退会
吉田昌雄会員（富山）12 月 31 日自主退会
矢島富佐恵会員（東京）12 月 31 日自主退会
田宮嘉久会友（北海道）12 月 31 日自主退会
兵頭英雄会友（兵庫）12 月 31 日自主退会
栗栖照雄会友（広島）12 月 31 日自主退会
野北泰司会友（福岡）12 月 31 日自主退会
伊賀美代子会友（大阪）12 月 31 日自主退会
倉本喜義会友（広島）12 月 31 日自主退会
森ひろし会友（兵庫）12 月 31 日自主退会